

# 特定行為研修修了者の組織における 活動の推進に向けた方策

公益社団法人日本看護協会 副会長

東京大学大学院 医学系研究科健康科学・看護学専攻 教授

山本 則子



生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 日本看護協会

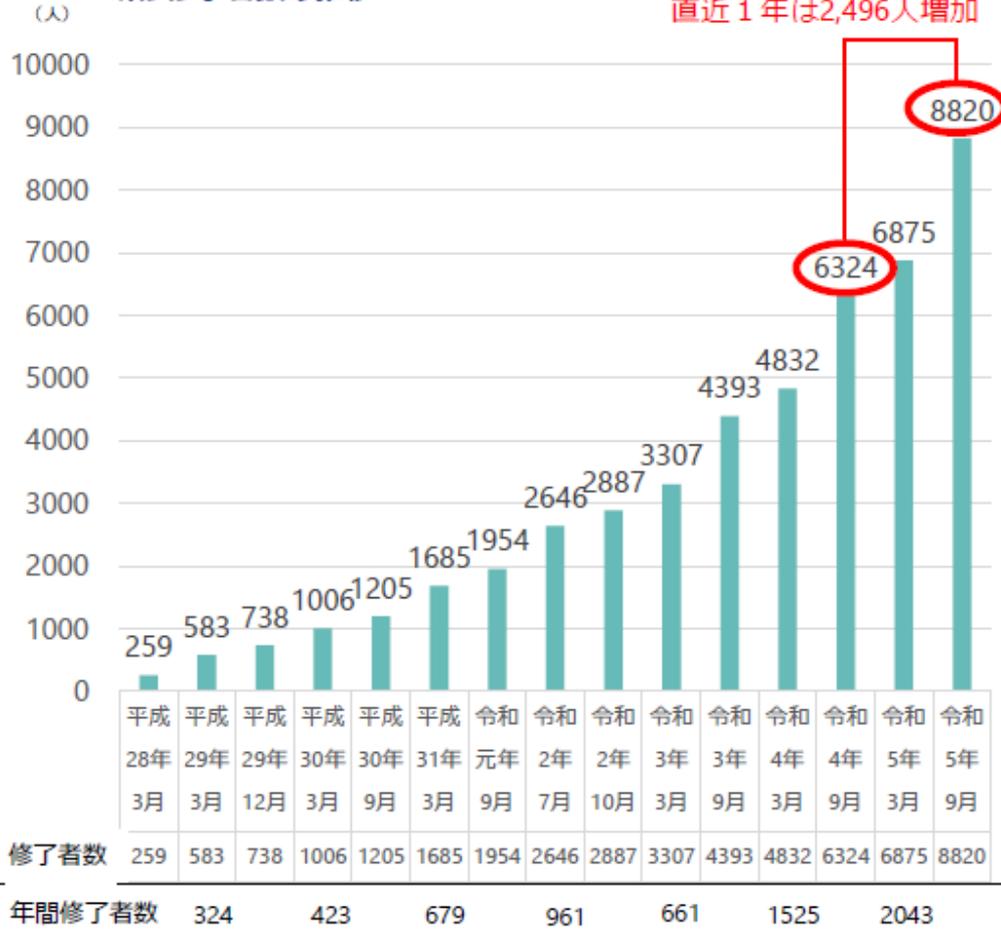
# 現状（指定研修機関数・研修修了者の推移）

- 特定行為研修を行う指定研修機関は、年々増加しており令和5年8月現在で**373**機関、年間あたり受け入れ可能な人数（定員数）は**5,437**人である。
- 特定行為研修の修了者数は、年々増加しており令和5年8月現在で**8,820**名である。

## ■ 指定研修機関数の推移



## ■ 研修修了者数の推移



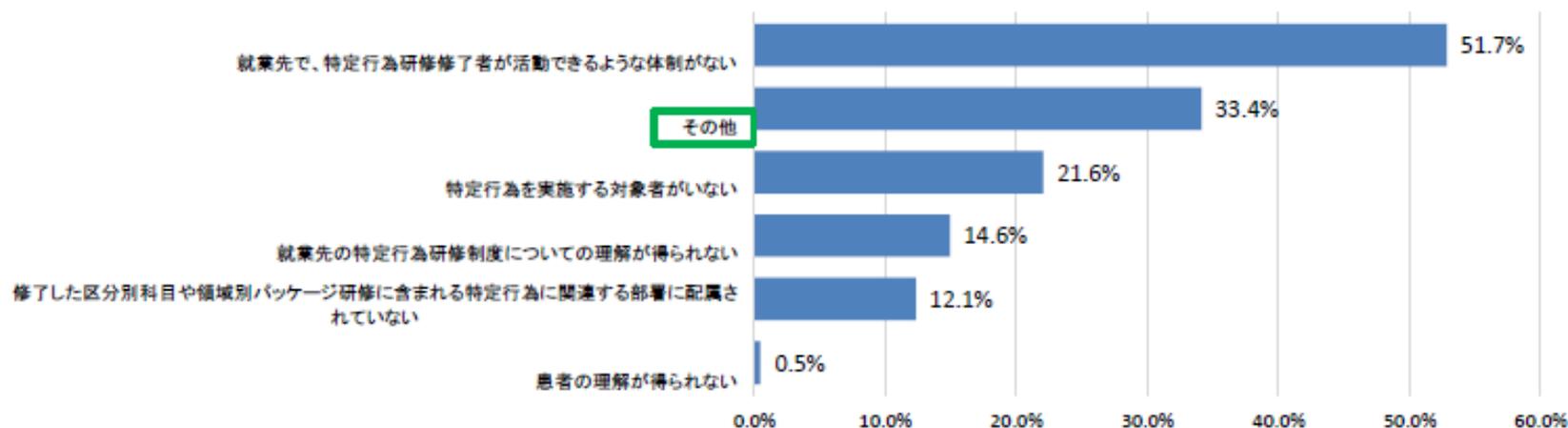
（厚生労働省医政局看護課調べ）

（令和2年はCOVID19影響で7月末時点）

## 特定行為を実施していない理由

○特定行為を実施していない理由としては、「就業先で特定行為研修修了者が活動できるような体制がない」が最も多く51.7%、次いで「その他」が34.1%、「特定行為を実施する対象者がいない」が21.6%、「就業先の特定行為研修制度について理解が得られない」が14.6%であった。  
○その他の主な内容としては、「新型コロナウイルス対応が優先されているため」「特定行為に関連する部署に配属されていない」等であった。

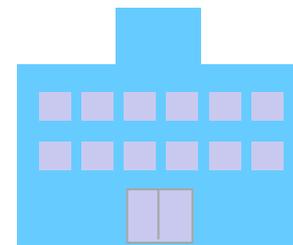
特定行為を実施していない理由（複数回答）（N=431）



### 【その他の主な内容】

- ・新型コロナウイルス対応が優先されているため。
- ・領域別パッケージ研修に含まれる特定行為に関連する部署に配置されていない。
- ・手順書が未整備、未完成。
- ・医師が複数名いる。医師のマンパワーが充足している。医師からの直接指示で実施している。
- ・看護師長、管理部門、教育部門に配属されている。

# 特定行為研修修了者の活動状況①



- 集中ケア認定看護師      A看護師
- 2017年 特定行為研修修了（6区分15行為）

区分	特定行為
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
呼吸器(人工呼吸器に係るもの)関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更・非侵襲的陽圧換気の設定の変更・人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整・人工呼吸器からの離脱
栄養に係るカテーテル管理関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入
動脈血液ガス分析関連	直接動脈 穿せん 刺法による採血・橈骨動脈ラインの確保
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整・脱水症状に対する輸液による補正
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整・持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整・持続点滴中の降圧剤の投与量の調整・持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整・持続点滴中の利尿剤の投与量の調整

2021年度日本看護協会 認定看護師を対象としたキャリアアップ研修会  
奥山広也氏の許可を得てスライドを一部改変

# 集中治療部での主な一日の流れ

8:00 集中治療部医師とともに病棟ラウンド

9:00 集中治療部カンファレンス

## 10:00 特定行為を活用した診療の補助

Aライン挿入、動脈血ガス採取、電解質補正など

11:30 病棟カンファレンス

ICU/CCU/HCUのいずれかに参加

12:30 休憩

14:30 病棟カンファレンス

ICU/CCU/HCUのいずれかに参加

## 15:00 特定行為を活用したリハビリテーション

侵襲的陽圧換気の調整、鎮静薬の調整など

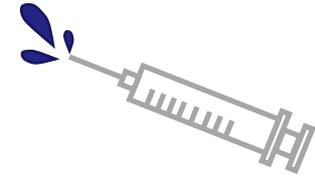
リハビリスタッフと調整

16:30 集中治療部 回診に同行



2021年度日本看護協会 認定看護師を対象としたキャリアアップ研修会  
奥山広也氏の許可を得てスライドを一部改変

# 特定行為研修修了者の活動状況②



- 糖尿病看護認定看護師 B看護師
- 2018年 特定行為研修修了（2区分3行為）

区分	特定行為
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 脱水症状に対する輸液による補正
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整

2021年度日本看護協会 特定行為研修修了者フォローアップ研修会  
山崎優介氏の許可を得てスライドを一部改変

# 特定行為研修修了者の活動状況②

## 事例紹介

認知症発症した独居の糖尿病患者（Cさん）に入院中から介入  
近所に住む息子にインスリン注射の介入を依頼、  
訪問看護を導入し、退院後同行訪問を実施した。

→低血糖・高血糖昏睡を回避できた

## 特定行為研修修了による看護実践の変化



タイムラグ



タイムリー

本人の生活をその場で見ながら生活に合わせたインスリン調整ができる

# 特定行為研修修了看護師の複数配置に関する実態把握および有効活用に影響する要因の調査

令和2年度,3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

• 研究期間 令和2年4月1日から令和4年5月31日

• 研究班

研究代表者 酒井 郁子 (千葉大学 教授)

研究分担者

- 山本則子 (東京大学 教授)
- 山本武志 (札幌医科大学 准教授)
- 北川裕利 (滋賀医科大学 教授)
- 藤谷茂樹 (地域医療振興協会 地域医療研究所)

研究協力者

- 鈴木 靖子 (地域医療振興協会 JADECOR-NP・NDC研修センター)
- 中井 智子 (滋賀医科大学医学部附属病院 看護師特定行為研修センター)
- 山下祐貴 (滋賀医科大学)
- 佐伯 昌俊 (千葉大学 助教)
- 西宮岳 (千葉大学 特命助教)
- 小松 亮 (千葉大学 博士後期課程)
- 尾上望 (千葉大学 特任研究員)

# 特定行為研修修了者の組織的配置・活用ガイドの概要



## 概要

複数の特定行為研修修了看護師（以下、修了看護師）を組織内に配置し活用している医療施設が増加しつつある一方、修了看護師の活動を期待しつつも育成配置に困難を抱える組織もある。また修了看護師の人数が増えないため、修了看護師が期待通りに能力発揮できない環境に置かれている組織がある。今後修了看護師数は急激に増加することが見込まれるため、組織的に配置・活用するための方策を共有することが必要である。以上の背景から、修了看護師の複数配置・活用を実現するための効果的効率的な方策を「特定行為研修修了看護師の組織的配置・活用ガイド」としてまとめた。



## 対象者

修了看護師の導入・普及に課題を感じる組織管理チーム、医師、修了看護師、修了看護師の同僚



## 本ガイドの前提

このガイドは、令和2年度から3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査（研究代表者：酒井郁子）」の助成により、2年間の調査・研究の成果をもとに作成された。詳しい調査結果については、厚生労働科学研究成果データベースの報告書を参照のこと。



## 目次

はじめに

### 第1章 総論

1. 特定行為研修修了看護師活用のための制度理解
  - 1) 特定行為研修制度
  - 2) 診療の補助と医師の指示
2. 特定行為研修修了看護師の配置・活用分類
3. 特定行為研修修了看護師配置・活用のプロセス

### 第2章 第一の障壁を乗り越えるために

1. 修了看護師の複数配置・活用を構想する
2. 特定行為研修修了看護師を育成する
3. 特定行為研修修了看護師を配置する

### 第3章 第二の障壁を乗り越えるために

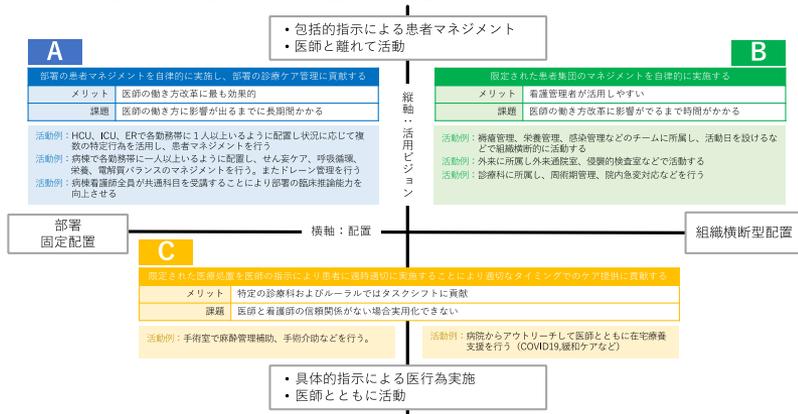
1. 特定行為研修修了看護師を活用する
2. 修了看護師の活動を普及する
3. 特定行為研修修了看護師の活用を周知する

### 第4章 付録 Tool Kits

1. 第一の障壁を乗り越えるためのアクションリスト
2. 第二の障壁を乗り越えるためのアクションリスト
3. 周知のためのテンプレート

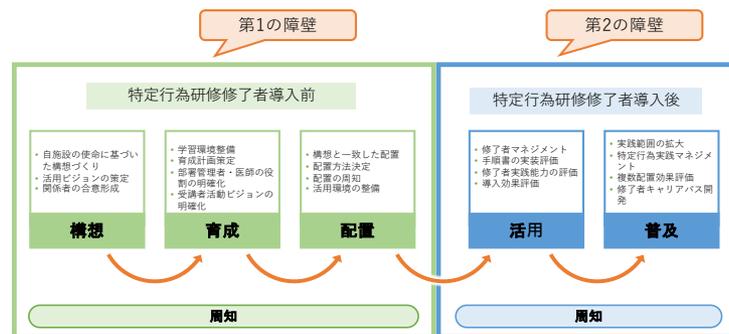
# 特定行為研修修了者の配置活用モデルの概要

## Ver3 特定行為研修修了者の活用・配置の分類と例



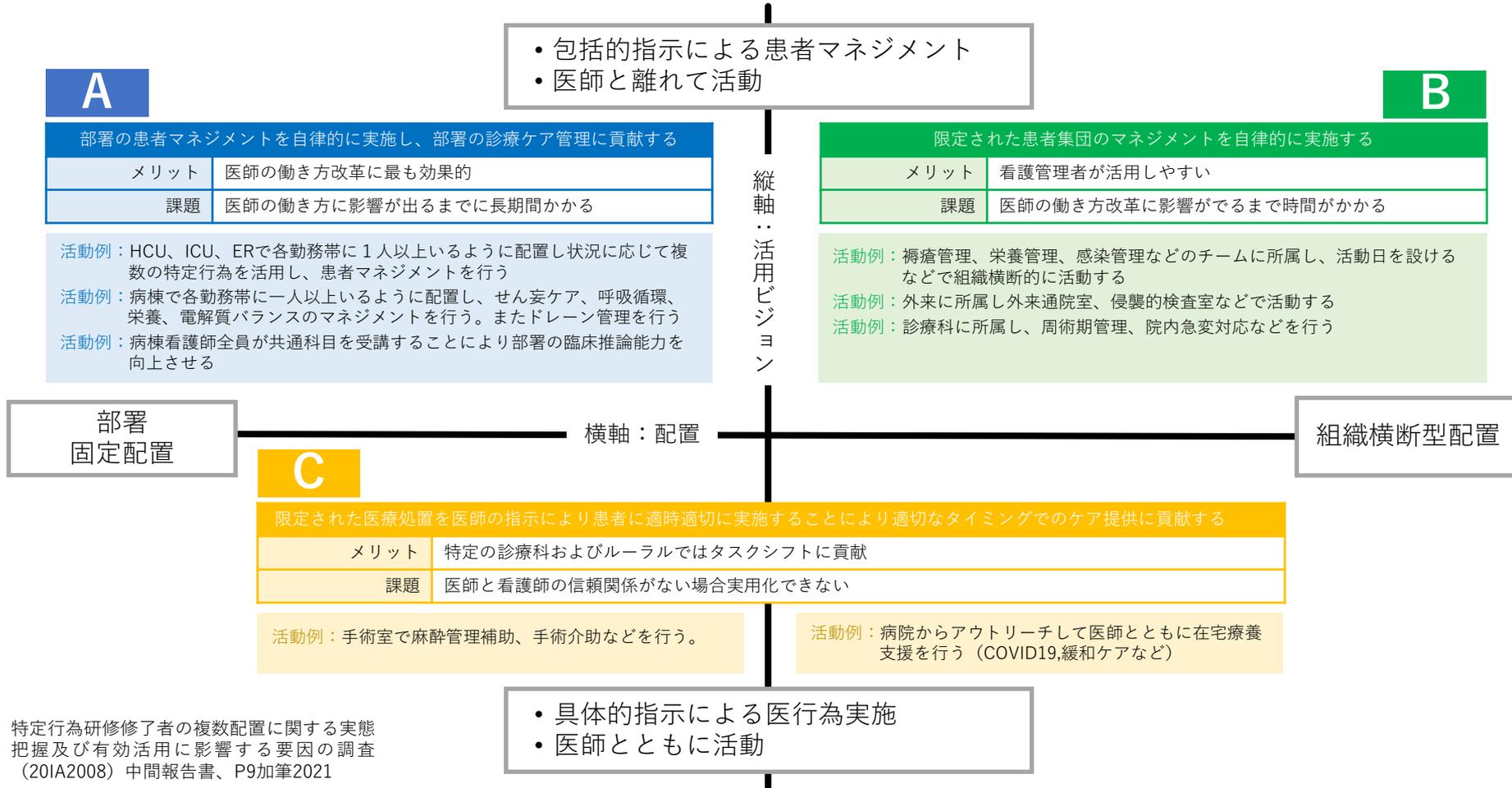
特定行為研修修了者の組織的配置・活用ガイドp.5~8

## 特定行為研修修了者の組織的配置活用の発展過程

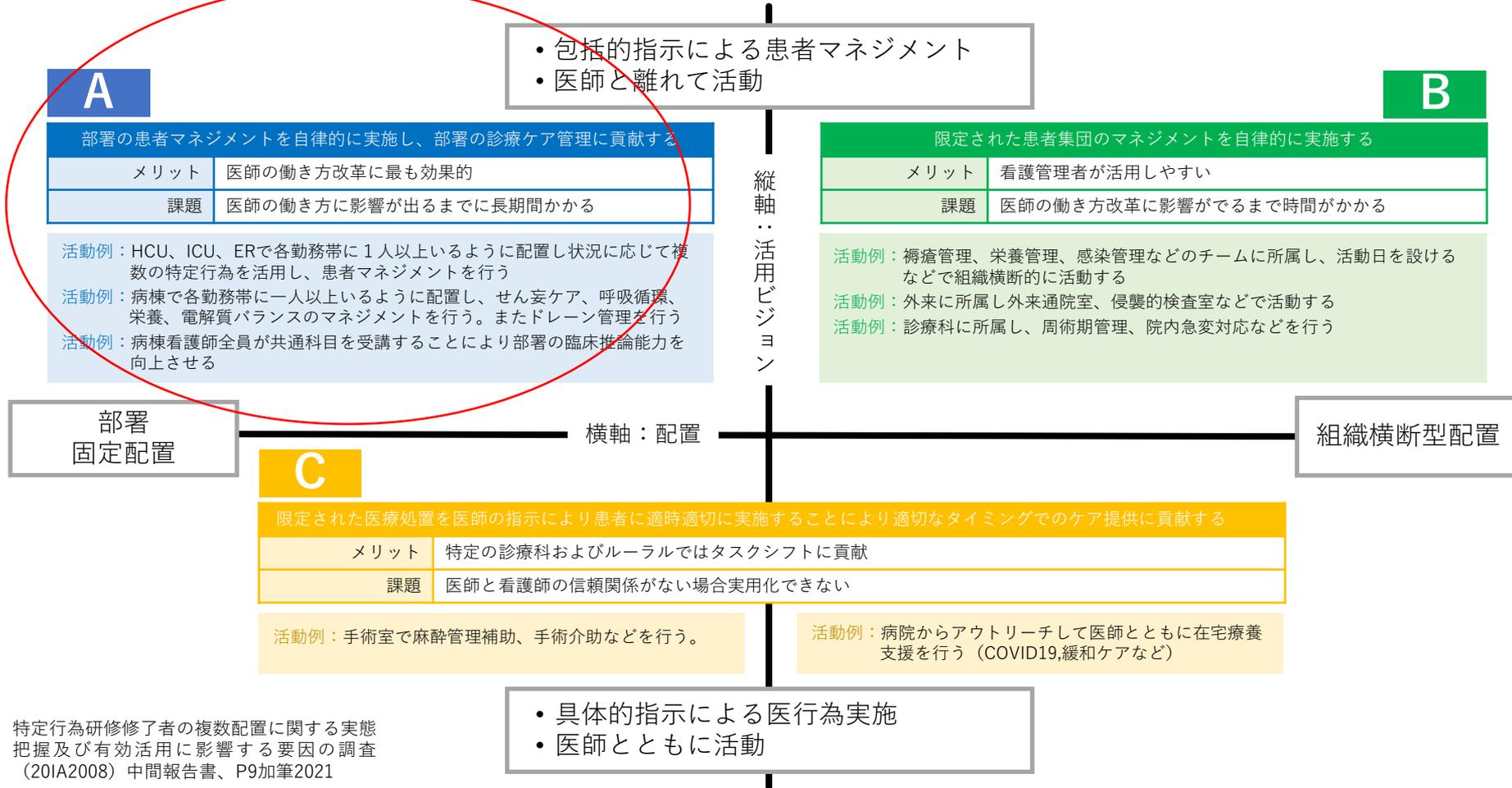


特定行為研修修了者の組織的配置・活用ガイドp.8~9

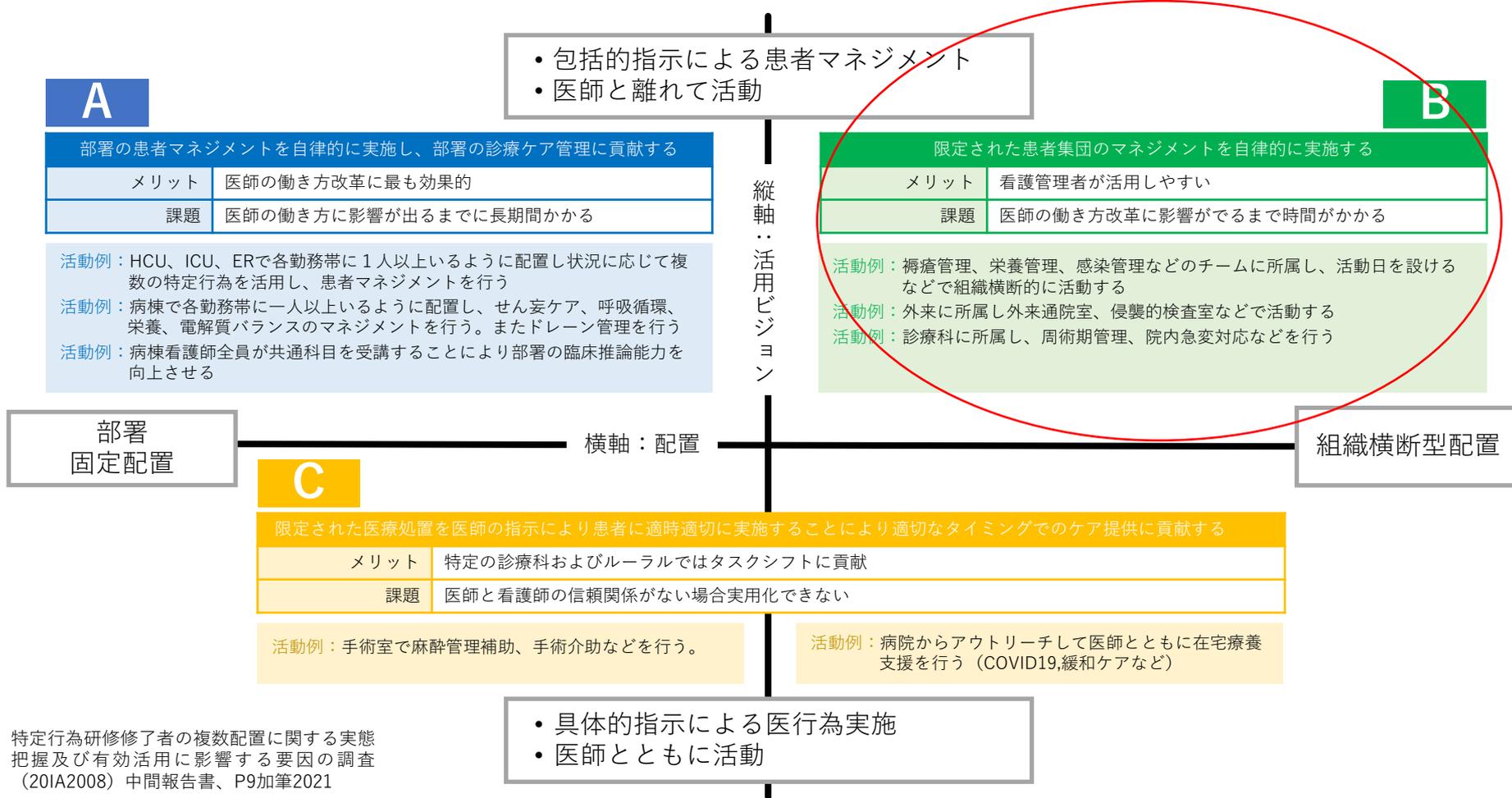
# Ver3 特定行為研修修了者の活用・配置の分類と例



# Ver3 特定行為研修修了者の活用・配置の分類と例



# Ver3 特定行為研修修了者の活用・配置の分類と例



# Ver3 特定行為研修修了者の活用・配置の分類と例

- 包括的指示による患者マネジメント
- 医師と離れて活動

**A**

部署の患者マネジメントを自律的に実施し、部署の診療ケア管理に貢献する	
メリット	医師の働き方改革に最も効果的
課題	医師の働き方に影響が出るまでに長期間かかる

- 活動例：HCU、ICU、ERで各勤務帯に1人以上いるように配置し状況に応じて複数の特定行為を活用し、患者マネジメントを行う
- 活動例：病棟で各勤務帯に1人以上いるように配置し、せん妄ケア、呼吸循環、栄養、電解質バランスのマネジメントを行う。またドレーン管理を行う
- 活動例：病棟看護師全員が共通科目を受講することにより部署の臨床推論能力を向上させる

**B**

限定された患者集団のマネジメントを自律的に実施する	
メリット	看護管理者が活用しやすい
課題	医師の働き方改革に影響がでるまで時間がかかる

- 活動例：褥瘡管理、栄養管理、感染管理などのチームに所属し、活動日を設けるなどで組織横断的に活動する
- 活動例：外来に所属し外来通院室、侵襲的検査室などで活動する
- 活動例：診療科に所属し、周術期管理、院内急変対応などを行う

縦軸：活用ビジョン

部署  
固定配置

横軸：配置

組織横断型配置

**C**

限定された医療処置を医師の指示により患者に適時適切に実施することにより適切なタイミングでのケア提供に貢献する	
メリット	特定の診療科およびルーラルではタスクシフトに貢献
課題	医師と看護師の信頼関係がない場合実用化できない

- 活動例：手術室で麻酔管理補助、手術介助などを行う。

- 活動例：病院からアウトリーチして医師とともに在宅療養支援を行う（COVID19,緩和ケアなど）

- 具体的指示による医行為実施
- 医師とともに活動

特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査  
(201A2008) 中間報告書、P9加筆2021

# 特定行為研修修了者の組織的配置活用の発展過程

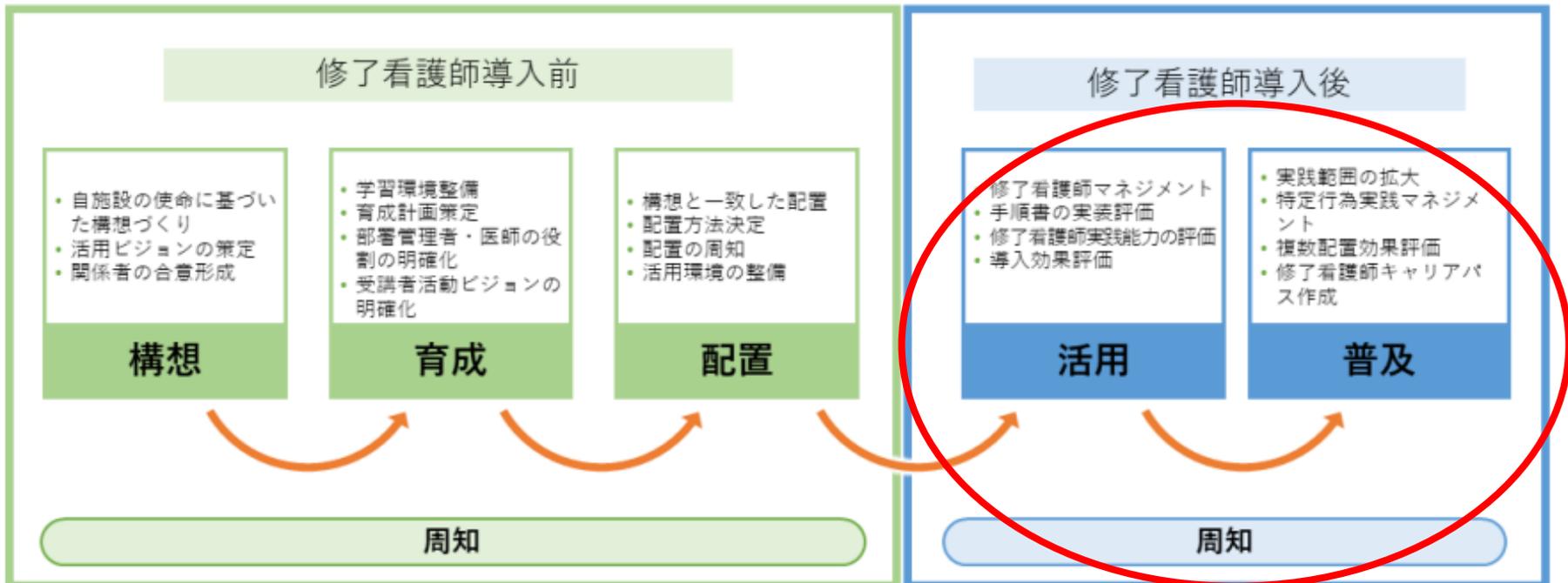
千葉大学大学院看護学研究院附属 専門職連携教育研究センター

令和2年度,3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

「特定行為研修修了者の複数配置に 関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査」

## 第一の障壁

## 第二の障壁



特定行為研修修了者をはじめて導入する施設で、修了者を配置した後に乗り越えるべき障壁

修了者を組織に導入した後、修了者の複数配置が実現していない施設でさらに乗り越えるべき障壁

千葉大学大学院看護学研究院ホームページ：特定行為研修修了看護師の組織的配置・活用ガイド  
[https://www.n.chiba-u.jp/iperc/research/files/completion\\_guide.pdf](https://www.n.chiba-u.jp/iperc/research/files/completion_guide.pdf)

# 特定行為研修修了者の組織的配置活用の発展過程

千葉大学大学院看護学研究院附属 専門職連携教育研究センター

令和2年度,3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

「特定行為研修修了者の複数配置に 関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査」

## 第二の障壁を乗り越えるために 修了者を活用する



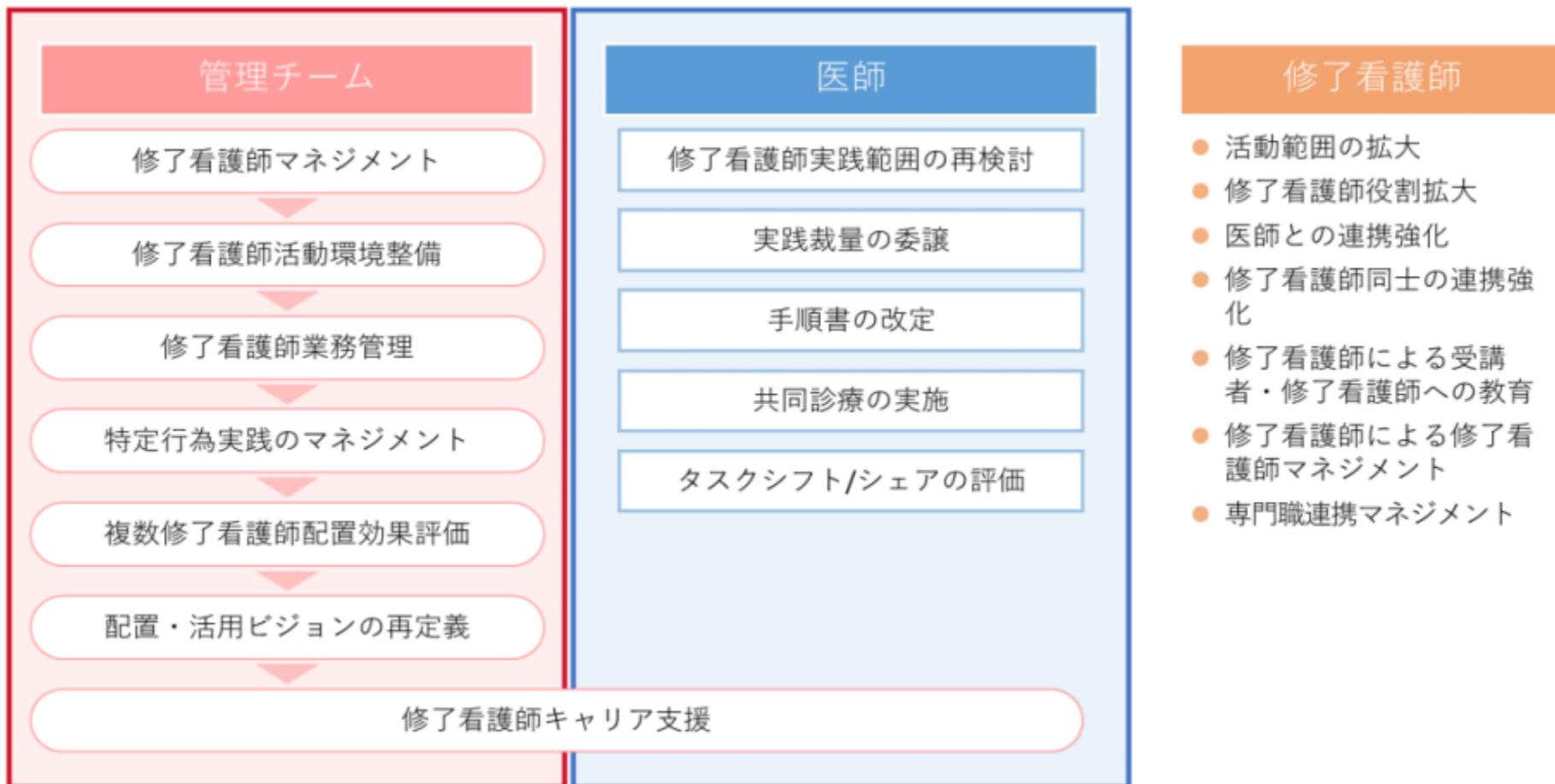
# 特定行為研修修了者の組織的配置活用の発展過程

千葉大学大学院看護学研究院附属 専門職連携教育研究センター

令和2年度,3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

「特定行為研修修了者の複数配置に 関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査」

## 第二の障壁を乗り越えるために 修了看護師活用を普及する



# 特定行為研修修了者の組織的配置活用の発展過程

千葉大学大学院看護学研究院附属 専門職連携教育研究センター

令和2年度,3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

「特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査」

## 第二の障壁を乗り越えるために 修了看護師を周知する



# 特定行為研修修了者の組織的配置・活用ガイド Tool Kits例

## 第一の障壁を乗り越えるための修了看護師のアクションリスト

### <構想>

- 役割モデルを得て受講動機を自覚する
- 組織内での修了看護師としての活動ビジョンを明確にする
- 組織の活用ビジョンを合意する
- 受講目的を明確にする
- 組織の育成ビジョンと受講目的を一致させる
- 組織の受講者選定基準を理解し合意する
- 組織の配置ビジョンを理解し合意する

### <育成>

- 特定行為研修受講に関する情報収集を行う
- 自施設からの支援を獲得する
- 組織内での修了看護師としての活動ビジョンを明確にする
- 学修継続のために同僚や先輩から情報収集する
- E-learning の受講環境を整備する
- 研修受講料の支援を獲得する
- 特定行為研修での学びを振り返り蓄積する

### <配置>

- 組織の配置ビジョンを理解し自部署の配置の見直しを行う
- 組織の修了看護師配置の目的を理解し合意する
- 部署からの役割期待を理解する
- 配置希望を表明する
- 部署での修了看護師としての活動ビジョンを明確にする

## 第一の障壁を乗り越えるための医師のアクションリスト

### <構想>

- 医師管理者が制度を理解する
- 指導医師が指導者講習会に参加し制度を理解する
- 医師が制度を理解できる機会を組織として作る
- 組織的に修了看護師を導入することを受け入れる
- 修了看護師の導入の目的を明確にする
- 医師として修了看護師への役割期待を明確にし、組織、修了看護師と合意する
- 組織の修了看護師活用ビジョンを合意する
- 特定行為の実施条件を合意する
- 修了看護師の実践範囲を明確にして手順書に反映させる
- 実践範囲を修了看護師と合意し協働して手順書を作成する
- 修了看護師と合意した実践範囲が組織的に承認されるようにする
- 指定研修機関となるかを検討し決定する
- 組織の育成ビジョン形成に協力し合意する
- 受講者選定基準を明確にして組織的に合意する
- 組織的な配置ビジョンの形成に協力し合意する

### <育成>

- 受講者の準備性を理解する
- 受講者の受講動機、背景を理解し配慮する
- 受講者に学習機会を提供する
- 医師の負担に配慮した役割分担を行い、指導医を確保する
- 修了看護師（もしくは相当の看護師）と医師が協働で指導する
- 医療安全に配慮した指導を行う
- 受講者の学修継続に配慮した支援を行う
- 研修後の受講者の活動を見越した指導を行う

### <配置>

- 修了看護師の配属先の情報収集を行う
- 配置決定ルールを診療科間で合意する
- 配置後の医師によるフォローアップ体制を作る
- 自律した実践の判断基準を作り組織として合意する

## 第一の障壁を乗り越えるための管理チームのアクションリスト

### <構想>

- 管理チームが特定行為研修制度を理解する
- 修了看護師を導入する組織の目的を文書化する
- 修了看護師の活用ビジョンを策定する
- 策定した修了看護師の活用ビジョンを合意する
- 修了看護師配置ビジョンを策定する
- 特定行為研修受講者の選定基準を明確にする
- 管理者から修了看護師に組織が期待する役割を説明する
- 具体的な役割モデルを提示する
- 自施設・自部署での患者のニーズと必要な特定行為を把握する
- 修了看護師の実践範囲を明確にし、組織的に合意する
- 修了看護師の活動のために組織的に準備する
- 指定研修機関になるか外部研修に派遣するかを組織的に決定する

### <育成>

- 学習に必要な PC の手配、部屋の確保など受講者の学習環境を整備する
- 受講者への経済的サポートを行うかどうかを組織的に決定する
- 受講中の受講者の勤務条件を明確にする
- E-learning のための研修日を確保するかどうかを組織的に決定する
- E-learning のための研修日を確保する場合、時間数を決定する
- 演習および実習のための研修日を確保する
- 学修継続が可能な勤務体制をつくる
- 受講者がいる部署の看護管理者の役割を明確にする
- 受講者を指導する医師の役割を明確にする
- 育成に関して医師の協力体制をつくる
- 受講者の学習意欲が維持するように支援する
- 受講者が活動ビジョンを明確にできるように支援する

### <配置>

- 管理チーム内で配置の目的を明確にする
- 修了看護師配置決定の責任者を明確にする
- 修了看護師配置の優先順位に関するルールを決め組織的に合意する
- 修了看護師の希望と組織的優先順位をすり合わせる

## ① 役割や活用についての検討・共通認識の構築

- ◆ 本制度を活用する意義やニーズ、本研修を修了した看護師に期待する役割についての 院内の共通認識の構築
- ◆ 患者に対しての周知 など

## ② 業務実施体制の整備

- ◆ on the job training (OJT) を含む指導体制の構築・継続研修への参加に対する支援など
- ◆ 業務実施基準等の整備
- ◆ 手順書の作成（運用）および定期的な見直しのルール化
- ◆ 業務の実施状況についての定期的な共有・課題の抽出・対応策の検討 など

## ③ 医療安全管理体制の整備

- ◆ 特定行為の実施に係る医療安全管理体制を含めた院内の体制整備の再構築
  - ・ 安全管理責任者の設置
  - ・ 安全管理に関する定期的な会議の実施
  - ・ 医療事故発生時等の対応に関する基準および院内報告制度等の整備 など